全建総連で関係省庁へ要請
「しっかり確保したい」

国土交通省での要請。CCUSカードもかざしニッコリ

【本部・田村彰宏記】12月3日、建設国保の補助金確保に向けた「全建総連中央行動」が行なわれ、関係省庁に要請しました。厚労省保険局要請には全建総連の役員を中心に31人が参加、東京土建からは石村副委員長他4人が参加しました。保険局からは森田国保課長ら3人が対応。

来年度予算確保の見通しについて、森田課長は「裁量的経費においては例年、財務省から前年度比10%削減という扱いのルールがあるなか、必要なものはしっかり確保していきたい」。ハガキ要請に対しては「建設国保は『命と健康を守る最後の砦』と直筆で書かれ、大変多くの方から届いている。重く受けとめたい」と語りました。

仲間からは、最近の医療費動向、2018年度所得調査の影響、未就学児の保険料軽減措置、オンライン資格確認に係るシステム改修等の意見・要望が出されました。最後に森田課長からは「皆さまからの意見をていねいに受け止めながら解決に向けて一生懸命努力していきたい」との決意が表明され、要請を終了しました。

杉並
4支部で南相馬へ
護岸積み直し、竹林伐採も

護岸つみなおし作業中

【杉並・書記・喜多正之通信員】杉並支部は東日本大震災の年から被災地での復興支援活動に毎年とりくんできました。今年は11月20~21日で、文京・新宿・小平東村山の4支部合同26人の参加で南相馬復興支援活動を行ないました。

20日は被災地視察で震災遺構として整備された請戸小と、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問しました。翌21日は、日曜からの参加者も加わり、竹林の伐採と住宅裏の用水路の護岸の積み直しの2組に分かれて、朝9時ごろから作業開始。護岸は午前中で終わり、依頼主・表さんからは感謝の言葉とみそ汁などもいただきました。午後は竹林伐採に合流し、急遽追加になった住宅地の草刈り作業も手分けして完了しました。

参加した文京の飯塚さんは「以前7年ほど前に個人で来たときは更地や仮設住宅がたくさんあり、以後も折に触れ気になっていました。今回土建で機会を得て来られてよかったです。風光明媚なところ、住民のみなさんが戻れるように」と話し、小平東村山の三輪さんは「10年たち、人の戻ったところは街という感じがありますが、人の戻らないところは時間が止まったよう。住める街に戻ってほしい」と語っていました。

足立
浪江町で視察と奉仕活動
被災地の現状を実感

参加した足立支部の皆さん

【足立・書記・早川勝久記】11月14日~15日、東日本大震災から10年が経過した原発被災地の視察とボランティア活動を足立支部組合員12人で行なってきました。

1日目は、一部地域の帰宅困難指示が解除された福島県浪江町の様子を視察。街の中を少し歩けば、倒壊しかけている建物、10年前の面影を当時のまま残した建物など、原発事故特有の街並みが広がっていました。ここが本当に日本なのかと感じさせられるほど、復興とは、かけ離れている状況が広がっていました。

2日目は終日、ボランティア活動に従事。活動の前に、ボランティアセンター長より被災地の現状報告を受けました。街に市民が戻ってこないこと、お米も風評被害で売れないこと、様々な苦労がまだ被災地には残っていることを切実に語られていました。センター長自身も「できる人が、できる時に、できることをやる」と自分にいい聞かせながら、街に人が帰ってきてくれる事を期待して活動に従事しているとのことでした。

マイナ拡大するな
「個人情報の管理はイヤ」

1時間の行動で55筆の署名が集まりました

11月30日、新宿駅西口で東京土建も加わるマイナンバー制度反対連絡会で街頭宣伝を行ない、東京土建からは16人が参加しました。

リレートークで東京土建の木村潮人書記次長は「政府はデジタル庁を設置し、マイナンバーカードの普及を強引に押しすすめている。その狙いは預貯金や医療機関での受診状況を把握し、窓口負担の増額や年金額の見直しなど社会保障を減らし増税すること。世界的には、マイナンバーのような個人番号制度は人権侵害、憲法違反だと見直しされている。マイナンバー利活用拡大をやめるように政府に求めよう」などと訴えました。

行動参加者はリーフレットを配りながら署名を求めました。三鷹市在住の男性(20代)は「国に個人情報が管理されるのは嫌だ」、また港区在住の女性(40代)は「カードを作ってしまった。銀行口座を作るときに使った。また夫は確定申告の際に使った。しかし一つのナンバーに個人情報をひもづけるのはよくないと思う」と署名に応じてくれたうえで、話してくれました。

1時間の行動でしたが、反応はよく55筆の署名が集まりました。

「けんせつ」2366号（9月20日）2面に掲載した「建設国民健康保険組合への東京都補助金についての賛同署名」に署名していただいた都議の続報で、（既報の議員は除く、11月24日現在）で、99議員に達しました。全都議からの賛同をめざし、ひきつづき署名の要請をすすめます。

＊敬称略
＊都＝都民ファースト、共＝共産、公＝公明、自＝自民、立＝立憲民主、維＝維新の会、ネ＝生活者ネットワーク

建設国保への補助金
99都議から賛同

【足立区】後藤奈美（都）、発地易隆（自）、薄井浩一（公）、高島直樹（自）、斉藤真理子（共）、中山信行（公）
【葛飾区】北口剛士（公）、米川大二郎（都）
【江戸川区】原純子（共）
【港区】入江伸子（都）
【大田区】藤田綾子（共）、松田龍典（維）、鈴木晶雅（自）、勝亦聡（公）、玉川英俊（公）
【目黒区】斎藤泰宏（公）、西崎翔（立）
【渋谷区】中田喬士（立）、龍円愛梨（都）
【世田谷区】福島理恵子（都）、里吉ゆみ（共）、高久則男（公）、小松大祐（自）、三宅茂樹（自）、山口拓（立）、風間穣（立）、土屋美和（自）
【杉並区】茜ケ久保嘉代子（都）、原田暁（共）、小宮安里（自）、関口健太郎（立）、松葉多美子（公）、早坂義弘（自）
【西多摩】清水康子（都）
【北多摩2】岩永康代（ネ）
【八王子市】青柳有希子（共）、伊藤祥広（自）
【日野市】清水登志子（共）
【町田市】小磯善彦（公）、藤井晃（都）、星大輔（自）、池川友一（共）
【小平市】竹井庸子（立）、磯山亮（自）
【北多摩4】渋谷信之（自）
【西東京市】桐山ひとみ（都）

【北区】大松成（公）
【練馬区】小林健二（公）、藤井智教（立）、戸谷英津子（共）、尾島紘平（都）、村松一希（都）、柴崎幹男（自）、山加朱美（自）

都議会定例会
医療の抜本的拡充を
独法化中止せよ

11月30日、都庁舎前で2021年第4回都議会定例会に合わせて、東京地評など3団体が主催の昼休み集会が行なわれ、120人（東京土建からは66人）が参加しました。

主催者あいさつで荻原淳東京地評議長は「国も都も、経済の回復に前のめりだが、コロナは新たな変異株が急拡大している。再び医療崩壊を起こさないように医療・検査体制の抜本的拡充が求められる。今定例会での最大の課題は、都立・公社病院の廃止強行を許さず、独立法人化を中止すること。署名、宣伝、対話など都民世論に訴える運動を広げよう」と訴えました。

「コロナと消費税に苦しむ中小業者の実情」（東商連）「都立病院で働く者から独法化許さない」（都庁職病院支部）の発言の後、都庁舎に向けシュプレヒコール。

集会参加者などから「区立台東病院の『再編・統合案』の撤回を求める請願署名」を集めていた杉本良信さん（台東）は「独立法人化した地方の病院では医療体制が悪くなったと聞いている。東京都は独立法人化をやめてもらいたい」と話してくれました。